

## 地方の見方が変わってくる 建設業のこれから

### 経営トップ講義

@県立大

「ビジネス経済の実践」要旨

③



「企業は勝ち負けではなく継続性が重要だ」と語る池田会長

県立大佐世保校（山口隆行撮影）

池田工業会長

池田 敏章氏

私は総合建築業の会社の会長を務めている。父が昭和20（1945）年に創業した。オイルショックを機に業種を変え、建設部門を始めた。「仕事を通じ地域社会の発展に協力する」を社是として、させば五番街や各地のマンション、大学（九州大、長崎大）、病院、老人ホームなど数多く施工させてもらった。

私は総合建築業の会社の会長を務めている。父が昭和20（1945）年に創業した。オイルショックを機に業種を変え、建設部門を始めた。「仕事を通じ地域社会の発展に協力する」を社是として、させば五番街や各地のマンション、大学（九州大、長崎大）、病院、老人ホームなど数多く施工させてもらった。

学校、郷土を愛することが国を愛することにつながる。企業は勝ち負けではない。残さなくてはならない。継続性が一番重要だ。

私が副代表幹事をしている長崎経済同友会は、さまざまな政策を提言している。2011年12月には「元気な、さ

せば」から県北に活力を」という提言をした。佐世保市は進学や就職で転出する人が多く人口が減っている。産学官一体で取り組まなければ過疎になる。製造業が少ないので、観光振興による流動人口の増加や産業育成が重要だ。あとは基地経済だ。佐世保は基地でできた町と言っても過言ではない。これを活用して経済を活性化させ、若い人が郷里に戻れる環境をつくりたい。地方創生に特効薬はない。みんなが知恵を出して実行できることから実行したい。

生産年齢層を確保するためには課題となるのは海外からの就労者と留学生だ。先進国は人口減少に陥った際に移民制度を採用した。争いは絶えないが、生産性は上がり、消費

も伸びている。どちらがいいのか、考える時期にきている。今国内には就労者と留学生が250万人いる。雇用するにしても、雇用する側は英語ができなくてはならない。佐世保市は幼児への英語教育をできる環境がある。町で外国人と擦れ違っても振り返る人はほとんどいないなど、外国との友好関係ができています。

社員にも言っているが、よく学び、よく遊んでほしい。世の中を見て回ったり、スポーツをしたり何でもよい。人間の幅をつくってほしい。遊び心が将来の大成につながる。勉強に明け暮れ、世の中が見えなくなると困る。今のうちにいろんなことを経験してほしい。心身ともに健康が大事だ。苦勞を物とせず猪突して頑張れば、必ず明るい未来がある。（西村伸明）

次回11月7日に掲載します

# 活性化 みんなで知恵を